

鈴木 舞 & 實川 風

デュオ リサイタル
《第6弾》

香り高さ
ドビュッシー、
ラヴェル、プーランク
フランス音楽の午後

2022年 **3月21日** (月祝)

開場 14:30/開演 15:00

【入場料】

会員 4,500円(座席指定可)/一般 5,000円/学生 2,500円(全席自由席)

<プログラム>

ドビュッシー：ヴァイオリン・ソナタ L.140 ト短調

ラヴェル：ヴァイオリン・ソナタ 第2番 M.77 ト長調

プーランク：ヴァイオリン・ソナタ FP.119

他

*プログラム等は、やむを得ない事情により、変更になる場合がございます。



鈴木 舞&實川 風 デュオリサイタル

123
Mitake Sayaka Salon (vol.108)

2022年3月21日(月祝) 開場14:30/開演15:00 会員4,500円(座席指定可)/一般5,000円/学生2,500円(全席自由席)

ドビュッシー、ラヴェル、プーランク 香り高きフランス音楽の午後——

フランス音楽と聞いて、何をイメージするだろうか？
どこか抽象的な、どこか色彩的な、何か曖昧な……？

今回は、ドビュッシー(1862-1918)、ラヴェル(1875-1937)、プーランク(1899-1963)という3人のフランスの作曲家たちが描き上げたヴァイオリン・ソナタを取り上げる。

彼らは、同じフランスの作曲家だが、実際は異なる作風の作曲家である。良きライバルとして互いを尊重していたとされるドビュッシーと13歳年下のラヴェル。そして幼少期にドビュッシーの音楽に影響を受け、ラヴェルの葬儀に参列したとされるプーランク。

同じ時代を生きた作曲家、しかも同じ音楽院出身、ドビュッシーはラヴェルとともにフランス印象派の創始者として、全く新しい世界観を切り開いたことで並べられる。

しかし、二人の作風は対照的である。

ドビュッシーは音色や色彩的なものを大切にしていた。

音色に対してのファンタジー、イメージーションが全面的に感じられる。

ドビュッシーの音楽は、“瞬間の神秘”と比喻されるほどに、感覚・感性に重きを置いていたようだ。

一方、ラヴェルは、すでにある伝統的な形式の中に自身の新しいアイデアを取り入れていた。

このことから、ラヴェルは伝統的基盤や理論にもこだわっていたことがわかる。

ドビュッシーはどこか開放的で色彩的なイメージだが、ラヴェルはその緻密さから、どこか内省的に聴こえるのは本質的な違いからだろうか。

そしてプーランクの音楽は、哀愁を帯び、歌謡性の富んだメロディに、「あ、これはプーランクの音楽だ」と、なんと特徴的だ。

ユニークで、どこかシニカル、ハーモニーも独特なのだ。

ラヴェルはジャズに影響を受けたと言われるが、プーランクはシャンソンに影響を受けたとか……。

同じフランス音楽でも、これほど多様な音楽が生まれているのだから、フランスが今なおアート最先端の国として位置づけられているのは、妙に納得できる。

プーランクのヴァイオリン・ソナタは鈴木舞氏のCD「マイ・フェイバリット」で開眼したと言っても過言ではなく、彼女のフランス音楽に対する美意識とセンスが、音楽の深さを生んでいるのだろうか。

彼女の藝大高校時代から朋友で、お互いを知り尽くしているピアニスト實川風氏のピアノも実に心地が良い。

信頼しているからこそだろうか、妥協を許さぬ音楽作りに、完成度の高さと揺るがない安定感が感じられる。

フランス音楽には、格別な華とセンスを併せ持っている二人の演奏家と共に、ドビュッシー、ラヴェル、プーランクという異なったフランス音楽のエスプリに浸る午後も過ごしてみたい。

(美竹清花さろん)



鈴木 舞 (SUZUKI Mai) Violin

東京藝術大学を卒業。ローザンヌ、ザルツブルク、ミュンヘンで研鑽を積む。

ヴァーツラフ・フムル国際ヴァイオリンコンクール第1位。スビヴァコフ国際ヴァイオリンコンクール第2位。

ヨルマ・ハヌラ指揮クオビオ響はじめホーフ響、モラヴィアフィル、ローザンヌ室内管、クアチア放送響と、国内では読売日響、東響、日本フィル、日本センチュリー響等と共演。

フランスや日本の作品によるデビュー録音ではCD「Mai favorite」(キング)が2021年「ルンドン・ロートレック展」のオーディオガイドに採用されたほか、CD「アンリ・マルトール」(作品集第5集-24のカプリースOp.25) (ドイツ Solo Musica)に参加。

日経ミュージックセレクションCDでは東響とペーターヴェン、マズネを収録した。

使用楽器は1683年製のニコロ・アマティ。



實川 風 (JITSUKAWA Kaoru) Piano

2015年ロン・ティボー・クレスマン国際コンクール(パリ・フランス)第3位、最優秀リサイタル賞、最優秀新曲演奏賞を受賞。2016年カラリョ国際ピアノコンクール(カラリョ・イタリア)にて第1位を受賞。本格的に国内外での演奏活動を広げる。

ペーターヴェンを核とした重厚なレパートリーに取り組む一方、邦人作品の初演でも作曲家より指名を受け携わる。

海外の音楽祭への招待には、上海音楽祭、ソウル国際音楽祭、ノアン・シヨパンナイト(フランス)・アルソノール(オーストリア)がある。

東京藝術大学附属高校・東京藝術大学を首席で卒業し、同大学大学院(修士課程)修了。山田千代子・御木本澄子、多美智子、江口玲の各氏に師事。グラーツ国立音楽大学ポストグラデュエイト課程にて、マルクス・シルマー氏に師事。



大ホールプラチナ席をしのぐ
“美竹清花さろんという楽器”の中で
味わう一期一会
世界に羽ばたく才能あふれる
トップアーティストが続々と集結。

日本のトップクラスの若手演奏家が、
こだわり抜いた価値ある企画をお届けしていきます。

美竹清花さろんが追求する“本物の音楽”は、
演奏者と参加者とわたしたちの、
三位一体の努力と対話から生まれます。

大好評につき
サロン・メンバーズ
追加募集中!



誕生。
クラシック音楽サロン、
宮益坂、
渋谷駅 徒歩2分



●お問い合わせ

株式会社 I LA (美竹清花さろん)

東京都渋谷区渋谷1-12-8 (〒150-0002)

☎ 03-6452-6711 (平日10:00-18:00)

070-2168-8484 (時間外可)

Fax 03(3409)0188

